

## 報告

# 2023 年度グローバル学術交流事業 「言語マイノリティ： 人権の拡張か、文化遺産の保護か」 採択記念キックオフセミナー実施報告

愛知県立大学外国語学部国際関係学科 亀井伸孝  
名古屋外国語大学外国語学部非常勤講師 竹内めい  
愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻 佐野直子  
愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 奥野良知

### 【開催概要】

日時:2023 年 2 月 3 日(金) 16:10-17:50

場所:愛知県立大学長久手キャンパス B201 講義室/Zoom 会議室

対面・オンライン併用、参加無料

主催:愛知県立大学多文化共生研究所

### 1. セミナー開催の目的

愛知県立大学の 2023 年度グローバル学術交流事業として、「言語マイノリティ: 人権の拡張か、文化遺産の保護か」が採択された。少数言語の保護をめぐるには、言語権や人権の側面からのアプローチと、文化遺産や知的資源の側面からのアプローチがあり、それぞれの少数言語話者とその関連するコミュニティ内外において、さまざまな議論と戦略が存在している。このたび、事業が採択された機会に合わせ、論点整理を行うセミナーを開催することで、次年度の事業展開を前にした理論的な準備を行った(表 1)。

### 2. セミナーの内容

セミナーの前半では、まず佐野が 2023 年度グローバル学術交流事業の概要説明を行った。「言語マイノリティ」とは、特に近代国民国家の「国語」や「公用語」にならなかった言語の話者たちである。それらの言語に対する無理解や差別、排除にさらされてきた結果、多くの言語の使用が衰退している。一方で、言語マイノリティ側もさまざまな抵抗運動を展開し、特に 1990 年代以降、マイノリティ言語を保護しようとする世界的機運も出てきた。しかしその方向性には二つある。一つは「人権」理念を、マイノリティ言語を使用する権利にまで拡張する動きであり、もう一つは「文化遺産」概念を拡張することでマイノリティ言語を保護対象にしようとするものである。多様な状況にある言語マイノリティが、それぞれ、どのような主張を行っているのか、当事者から直接伺い、交流することが、本プロジェクトの目的である。以上のような説明を行った。

次いで、竹内が「フランコ独裁期のスペインのカタルーニャでの初等教育における言語(使用)についてのかたり」と題する事例報告を行った。竹内は、当時の児童や教員を対象に行ったインタビューの結果について報告した。独裁期のカタルーニャでは、政権の指示に従い、カスティーリャ語での授業が行われ、カタルーニャ語は教科としても教育言語としても排除されていた。授業時間外ですらカスティーリャ語の使用を求められたと語るインタビュー協力者もいた。その一方で、児童の理解を助けるためのカタルーニャ語の使用や授業時間外でのカタルーニャ語の使用も語られた。また、1950年代から始まる教育刷新運動から新設された学校の児童や教員はカタルーニャ語が教育言語だったことを語った。児童だったときはカスティーリャ語の強要に疑問を持っていなかったと語る協力者もいたが、児童だったときから不満を持っていた協力者もいた。以上の内容を、簡潔にまとめて報告した。

後半では、「人権か文化遺産か」という問題設定のもと、カタルーニャ語、オクシタン語、アイヌ語、琉球語、日本手話および世界の諸手話言語の五つのケースについて、奥野、佐野、亀井が分担してそれぞれ短い解説を行い、各言語に伴う問題の所在を明らかにした。

これらを受けて、総合討論を行った。質疑応答では、今回の事業における五つのケースの選定理由、日本に分布する他の諸言語をも取り上げる必要性、各言語の正書法をめぐる確認、言語と方言の違い、教育が言語観にもたらす影響、少数言語と経済の関係など、多くの論点が提示された。これらは、本事業を展開する上で参考になる、貴重な視座をもたらした。

### 3. 参加者の状況

参加者は、本学長久手キャンパス B201 講義室での対面参加者約 40 名、Zoom 会議室におけるオンライン参加者約 30 名、合計約 70 名と、大変盛況であった。本セミナーには、金曜 5 限のヨーロッパ学科専門科目「地域と国家」(担当:奥野良知)の受講生が合流した。

オンライン形式を併用したことで、学外の多くの研究者の参加を得ることができた。参加者からは、秋の本事業への期待を寄せる声もあり、事前広報としての役割をも果たすことができた。

表 1 セミナーのプログラム(当日実施状況に基づき亀井作成)

<p>■前半(司会:奥野良知)(16:10-16:50)</p> <p>佐野直子「2023 年度グローバル学術交流事業の概要説明」</p> <p>竹内めい「フランコ独裁期のスペインのカタルーニャでの初等教育における言語(使用)についてのかたり」</p>
<p>■後半(司会:竹内めい)(16:55-17:20)</p> <p>奥野良知「人権か文化遺産か (1):カタルーニャ語のケース」</p> <p>佐野直子「人権か文化遺産か (2):オクシタン語のケース」</p> <p>亀井伸孝「人権か文化遺産か (3):アイヌ語のケース」</p> <p>奥野良知「人権か文化遺産か (4):琉球語のケース」</p> <p>亀井伸孝「人権か文化遺産か (5):日本手話、世界の諸手話言語のケース」</p>
<p>■総合討論(司会:竹内めい)(17:20-17:50)</p> <p>登壇者全員および参加者</p>



【写真 1】佐野直子氏



【写真 2】竹内めい氏



【写真 3】奥野良知氏



【写真 4】亀井伸孝氏



【写真 5】総合討論の様子



【写真 6】会場の風景

写真 1-6 は、いずれも 2023 年 2 月 3 日、  
愛知県立大学長久手キャンパス B201 講義室にて、主催者撮影  
協力:馬場由美子氏